飛翔 HISYOU

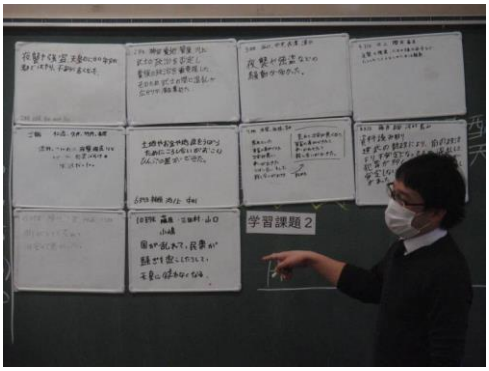
スローガン
世界で一番通いたい学校

＜めざす生徒像＞
自主：正しく判断し主体的に行動する生徒
協調：信頼し助け合い、思いやりと感謝のある生徒
責任：責任を自覚し、最後までやり抜く生徒
勤勉：喜びを感じながら、主体的に学ぶ生徒
健康：逞しく生きるための意志や体力を持つ生徒

令和3年2月16日
枚方市立長尾中学校
校長通信　第39号

1年生社会科(長谷尾先生の研究授業より)

長谷尾先生が、３日（水）の校内研究授業「道徳科」に続いて、４日（木）には管制研究授業「社会科」を、市教育委員会から指導助言者を招いて行いました。前日に続いて授業にタブレットを活用しようとしたところ、サーバーの不具合でつながらず、もしもの場合にと用意していたホワイトボードを使っての授業となりました。指導助言者からは「先生と子どもたちとの関係が素晴らしい。」「子どもたちが意欲的で、主体的に学ぼうとしている姿が見られる。」と言っていただきました。



先生たちでSDGsのワークショップを開催

SDGsとは「Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）」の略称です。そもそもどう発音するかというと、SDGs（エス・ディー・ジーズ）です。時々エス・ディー・ジー・エスと読まれる人がいますが、最後はGoals（ゴールズ）の略です。

SDGsは2015年９月の国連サミットで採択されたもので、国連加盟193か国が2016年から2030年の15年間で達成するために掲げた目標です。最近、多くの学校が学校教にSDGsを取り入れる動きがあり、2030 SDGs公認ファシリテーターである数学科の高木先生が３日（水）の放課後に有志の先生を集めてワークショップを行いました。この写真はその時の様子です。今後は長尾中学校においても、様々な教科や校内での活動でSDGsの考え方が取り入れられていくのではないでしょうか？

楽しく学べる時間をありがとうございました。ゲームの中の選択や行動に、自身の性格や標榜する主義までもが現れる深いゲームでした。生徒にも、簡単な言葉に置き換えたカードなどで体験させられたら、と思いました。また、興味を持たせるレベルから、深い理解・学び・選択まで、学年によって違った取り組みにできるかも、とも考えました。理科の授業にも取り入れられる方法を考えようと思います。（参加教員）

私立高等学校入試が行われました。

10日（水）、11日（木）は京阪神にある多くの私立高校で入学試験が行われました。

例年この日は寒さが厳しく雪がちらつくことも多いのですが、今年は穏やかな二日間となり、交通機関の乱れによる遅刻者もなかったようです。それぞれの生徒が真剣に、緊張感を持って、受験しました。面接では予想通りの学校もあれば詳しく聞かれてつまってしまった人もいたようです。結果は早い学校で翌日に発表されており、今日の時点ですべての学校の合格発表が終わっています。

合格した人、おめでとう。よく頑張りました。今の気持ちをいつまでも忘れないで下さい。残念な結果だった人、これまでのあなたの努力は決して無駄ではありません。気持ちを切り替えて、次の進路をめざして下さい。また、多くの人が、これから公立高校の受験を控えています。まだまだ緊張する日が続きますが、志を高く持ち続けてほしいと願っています。

東日本大震災から10年、福島・宮城で震度6強の地震

13日（土）午後11時８分ごろ、福島県沖を震源とするマグニチュード（M）7.3の地震があり、最大震度６強を観測しました。震源の深さは約60キロで、津波の発生はありませんでした。気象庁によると、2011年３月の東日本大震災の余震と考えられ、今後１週間は余震に注意とのことです。

東日本大震災では、死者・行方不明者が４０００人近くに上り、被災自治体で最大の人的被害が出た宮城県石巻市では震度６弱を観測しましたが、今回はそれを上回る震度だったにもかかわらず、10年前のような甚大な被害はなかったようです。それでも共同通信によると、16日現在で岩手、宮城、山形、福島、茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、神奈川の10県で１５７人の負傷者が確認されました。また、東北・関東地方では約92万戸が停電しました。宮城、福島両県内には避難所が設けられ、コロナ感染への不安を抱える中、両県で一時約２５８人が身を寄せました。その中にはきっと、高校受験を前にした中学生の姿もあった事でしょう。被災された地域、被災された皆様に対して、心よりお見舞いを申し上げるとともに、一日も早い復旧をお祈りします。

あだ名禁止、これはどうでしょうか？

あるクラスの学級通信に「中学生の投書意見」と共に「あだ名禁止、これはどうでしょう？」という見出しを見て、最近のネット記事に「校則であだ名禁止」というのがあったのを思い出しました。その記事よると、「いじめに繋がる懸念から、小学校を中心にあだ名を禁止している学校が増えてきている。」とのこと。確かに、文部科学省が発表したデータでは、2019年度のいじめ認知件数は61万2496件に上り、過去最多を記録したとのことで大きな話題となりました。いじめを減らすために全国の学校で様々な対策が取られていますが、その中に「あだ名で呼んではいけない。」という規則を設ける学校が増えている、というものです。

あだ名を一律で禁止する規則を設けるのは、苦痛を与えるあだ名とそうでないあだ名との区別が困難であることを踏まえた対応なのでしょう。しかし、このような規則を学校が設けることには、子どもたちの私的な部分を学校が制限し、自由を過度に制約することになるのではないでしょうか。集団で活動すれば何某かの問題は必ず発生します。そのような時、できるだけ自分たちで考え、自分たちで話し合って解決していく力を育むのも学校教育だと思います。勿論、場合によっては話し合いの場に教師やクラスの仲間が入ることも必要でしょう。嫌なあだ名によるいじめの被害をどのように防ぐかという問題は、自分たちで解決をめざすのに手頃な問題ではないかと思います。嫌なあだ名について自分たちで話し合って解決を図ることによって、他の問題が生じても、自分たち自身の手で解決する力がつくのではないでしょうか。また、これが民主的に問題を解決することだと思います。小学生と中学生では自己解決能力に差があるのは当然ですが、そういった力は小さい時から養っていかなければならないと思います。みなさんは、どう考えるでしょうか？

あだ名禁止疑問　相談体制整えて　中学生　竹内 結菜 14（大阪府茨木市）

最近ニュースで、あだ名を禁止している学校が増えていることを知りました。「いじめにつながる。」というのが理由ですが、禁止することが本当に必要なのか疑問に感じます。

いじめの原因は、あだ名だけではありません。禁止することで、かえっていじめの存在が見えにくくなるかもしれません。友達をあだ名で呼ぶことで、より親密になる事ができます。互いに「さん」付けでは他人行儀になってしまう気がします。

私はいじめを無くして楽しい学校生活を送るために必要な事は、あだ名を禁止するのではなく、生徒が先生などに相談できる体制を整える事だと思います。